別紙様式３（修士申請者用）

（西暦） 2021 年度　博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること）

放課後等デイサービスにおける作業療法士の体験

学位の種類：　修士（　作業療法学　）
東京都立大学大学院
人間健康科学研究科　博士前期課程 人間健康科学専攻　作業療法科学域
学修番号 19896708
氏　名：田村　彩
（指導教員名：小林　隆司　）

【はじめに】放課後等デイサービス（以下，放デイ）は，在学中の障害児に，生活能力向上のための訓練等を継続的に提供し，障害児の自立を促進するものである．作業療法士（以下，OT）は，放デイでの基本活動の支援に貢献できる職種であるが，2016 年の日本作業療法士協会の報告書によると，放デイに関わる OT は 256 人で，このうち主たる業務としている OT は 46 人でその数は少ない．また，放デイで働く OT は，若く経験の乏しい OT と熟練した OT に二極化し，その支援の質が異なっていることも報告されている．先行研究では，放デイにおける実践報告や OT の役割についての報告がほとんどで，放デイにおける OT の現場の状況や考えの把握を深く検討し，包括的にまとめられているものはない．そこで本研究では，放デイにおける OT の体験世界に焦点をあて，体験の本質を明らかにすることを目的とした．

【方法】放デイでの経験が 1 年以上の OT5 人を対象とし，オンラインでの非構造化面接を実施した．Giorgi と Parse を参考にして広瀬が行った方法を採用し，データを分析，記述した．

【結果・考察】分析の結果，11 の体験の本質が明らかになった(以下，【】で示す)．これらを３つの視点から結果・考察する．

1）架け橋的な存在

【OT のアイデアによる新たな生活スキルの獲得】，【友達同士のコミュニケーションを促進させるような働きかけ】，【子どもが将来ぶつかるであろう社会の障壁を乗り越えるきっかけを仕掛ける】，【長期間にわたり毎日子どもの変化を見守れる喜び】が見られた．放デイの OT の役割として，放デイと学校，放デイと家庭をつなぐ空間的な架け橋となることが求められていた．そしてその中で，OT たちは，学校，私生活につながっていく様を見られる喜びを見出していた．さらに，OT の役割として，放デイと学校教育終了後をつなぐ，時間的な架け橋となることも求められていた．

2）認知度に依存した専門性の発揮

【近隣の同様機関との持ちつ持たれつな関係】，【学校・学童と繋がれるかどうかは先生の OT に対する認知度による】が抽出された．近隣の放デイや療育センターといった OT に対する理解がある機関とは，互いに協力し合うことが比較的容易であるが，学校・学童との連携において，OT の専門性が発揮できるか否かは OT の認知度に左右されていた．しかしながら，OT たちの工夫により学校との連携につながっていた．

3）見出しつつある‘OT’像

【保護者の話を受け止める】，【浮き沈みのある OT としてのアイデンティティ】，【心身機能や定型発達の知識は子どもの理解のためのよりどころ】，【頼れる専門職として求められ/発信する意見】，【他のスタッフに頼れるのも OT の強み】が抽出された．放デイの中で OT は，一職員として位置付けられており，OT のアイデンティティの確立しにくさが明らかにされた．一方で，様々な職種との協働の中で，専門職としての意見を求められることが，放デイのなかでの‘OT’像を作り上げることにつながっていた．